世界遺産物語

レーティッシュ鉄道 アルブラ線・ベルニナ線と周辺の景観

エッセイスト　近藤　節夫

掲載 世界遺産鉄道路線図
（ティラーノ～トウジス間）

２つの国、スイスとイタリア国内を走行する登山鉄道・レーティッシュ鉄道が、2008年世界文化遺産に登録された。

世界遺産として認められたのは、450㎞ある同鉄道12路線すべてではなく、そのほんの一部の２路線・128㎞である。イタリアのティラーノ（標高429m）とスイスのサン・モリッツ（標高1,775m）を結ぶ61㎞のベルニナ線と、サン・モリッツとスイスの古都クールを結ぶ全線89㎞のアルブラ線の一部、サン・モリッツとトウジス（標高687m）間の67㎞を合わせた128㎞である。ティラーノと最高地点オスピツィオ・ベルニナ（標高2,253m）との高度差は実に1,800mもあり、登るにつれてアルプスの絶景と牧歌的な農村風景が姿を現し、車内からスイス・アルプスを興奮しながら心ゆくまで味わうことができる。

長い歴史を誇るレーティッシュ鉄道は、スイス国内では自然あふれる山岳地帯や文化的価値のある風情に恵まれ、また観光面や生活面ばかりでなく、貨物便としても広くスイス国民に利便を供与している。とりわけ観光列車のパノラマ・カー「ベルニナ急行」の車内は視界が大きく広がり、目の前にアルプスの絶景を存分に見せてくれる。中でも沿線最高のハイライトはベルニナ線のブルージオ高架ループ橋とアルブラ線のランドヴァッサー高架橋である。いずれも鉄道建築の粋を集め、技術的にも高度なテクニックが用いられた他に類のない鉄道高架橋である。

姉妹鉄道締結記念親善使節団一行
（於 ハイジ ランド高原）1979年8月
（前列右端筆者、３人目 鉄道会社社員）

1889年に開業し会社設立90周年を迎えた1979年６月、レーティッシュ鉄道は富士箱根伊豆国立公園内を走行する箱根登山鉄道㈱（現㈱小田急箱根）と姉妹鉄道提携協定を締結した。同年８月にはベルニナ線に試乗する姉妹鉄道締結記念親善使節団が派遣され、そのお供をする機会に恵まれた。

一般にガイドブックにはスイス側からイタリアへ降る紹介文が多いが、スイス行とイタリア・ティラーノ行の両方面行鉄道に乗車した経験から言うなら、山岳鉄道の真髄と醍醐味にたっぷり浸るには、スイス側から山を降るよりも、よりパノラマ的感動面からぜひともイタリア側からスイス行列車に乗車することをお薦めしたい。

ティラーノ駅を出ると市内電車のように市街の目抜き通りを走りほんの２㎞で、早くもスイス領内に入る。山間部に入って間もなく最初の目玉であるブルージオ橋が目に入って来る。ここから１周142m、高さ10m、勾配70‰のループ橋をひと回りする。窓越しに見るループ橋は正に圧巻である。それから列車が山と渓谷を縫うようにゆっくり登り出すと、目の前に次から次へと周囲のベルニナ・アルプスの絶景が惜しげもなくその姿を現す。カメラを持った乗客が忙しく車内を右往左往し、窓外の変化に富む景観には誰もが目を奪われ圧倒される。

ティラーノ駅には箱根登山鉄道との提携記念のパネルが飾られている。（箱根登山鉄道HPより）

箱根登山鉄道との姉妹提携記念のこんな列車もアルプス山中を走行している。（レーティッシュ鉄道HPより）

ループ橋の次の停車駅アルプ・グリュメは沿線で１，２を争う絶景ポイントで、近くにパリュ氷河がある。ラーゴ・ビアンコ湖畔の前記オスピツィオ・ベルニナ駅はベルニナ線の最高地点である。モルテラッチ駅からは氷河の端まで歩いて行ける。そして、ベルニナ沿線で夏でも雪景色の最高峰ピッツ・ベルニナ峰（標高4,048m）を眩しく眺めることができる。

ぐるっと一周するブルージオ橋

アルブラ線の最大の目玉である高架橋ランドヴァッサー橋は、長さ142m、地上65mの高さを誇り、その迫力ある鉄橋は例えようもないほど美しい。険しい峡谷に架けられた橋は、完工後すでに120年が経過したが、見事なまでに最高度の鉄道建築技術を生かしている。山に沿って走るアルブラ線には、５つのループ・トンネルなど数多くのトンネルがあるが、中でもアルブラ峠に掘削されたアルブラ・トンネルの長さは、実に5,866mもある。とにかく目に入るものすべてが物珍しく、感動に心が満たされる。またいつか、乗ってみたいと思わせる魅力たっぷりの世界遺産「ベルニナ急行」である。

雄大なアルプスの氷河を眺めることができる。（Wikipediaより）

長さ142m・高さ65mの雄大なランドヴァッサー橋（Wikipediaより）

車窓から見える雄大なモルテラッチ氷河（Wikipediaより）